

子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業 (学校・地域を避難所と想定した防災キャンプ)

菊鹿防災教育キャンプ

熊本県 山鹿市教育委員会(社会教育課)

【事業のポイント】

- 学校を避難所に想定
- 地域住民との避難訓練(声かけ訓練)
- 過去の災害について学び、防災・減災の意識付けを行う
- 地域の危険箇所を地域住民と共同でマップ作成
- 救急救命・AED操作などの基礎を学ぶとともに、起震車を体験し、災害時の基礎知識を取得する。



起震車体験

1. 企画

(1) 事業実施の背景

菊鹿防災キャンプの避難所と想定した菊鹿中学校は、南側を平野部に北、東、西側を急傾斜地の山々に囲まれ、土砂災害が想定される地域であることから、地域住民との共同の避難訓練や、生徒や地域住民が住む地区で大雨や台風等の災害に対し、どのような被害が想定されるかを考え、地図を作成する図上訓練を計画した。

国土交通省、山鹿市消防本部、陸上自衛隊等の関係機関の協力を得て、実体験による野外炊飯や防災教室を実施した。

(2) わらい

- ①学校での避難所生活を体験する。
- ②地域住民と共同で活動することにより、絆を深める。
- ③野外炊飯を体験し、いろいろな道具で炊飯できる炊飯術を学ぶ。
- ④消防からの応急担架搬送・AED操作・起震車体験等により防災の基礎を学ぶ。
- ⑤陸上自衛隊から給食の支援を受け、公的支援を体験する。

2. 実施概要

(1) 地域プラットフォームの構成

- ①会場校PTA・地元区長会・自主防災組織・食育研究会・社会福祉協議会により運営委員会及び実行委員会を構成した。
- ②県立少年自然の家・国土交通省菊池川河川事務所・陸上自衛隊・熊本市消防局・山鹿市(防災監理課・水道局・消防本部)の公的機関の指導・援助を受けて、基礎的体験学習を実施した。
- ③地域住民と生徒たちの共同での防災体験を実施することにより、生徒が地域構成員であることの自覚と絆を深めた。

(2) 具体的な取組の概要



給水車による給水体験



住民との図上訓練

(3)実績スケジュール	
月 日	内 容
9月15日	運営委員会開催
9月27日	第1回実行委員会開催
10月10日	第2回実行委員会開催
10月20日～22日	菊鹿防災教育キャンプ実施
2月20日	菊鹿防災教育キャンプフォーラム開催

3. 成果と課題

(1) 成果

※別紙アンケート結果参照

3日間の活動プログラムに参加した1年生のうち、提出された分を集計

(成果)

- ① 自助・共助・公助を体験し、学ばせることができた。
- ② 地域住民との共同の活動を実施することで、住民との絆を深めた。
- ③ 避難所生活を体験することで、自分たちに何ができるかを考える機会になった。
- ④ 公的機関、自治会、学校の協力体制を構築でき、今後の活動に生かせる機会となった。

(2) 課題

- ① 地域住民との絆をより深める活動プログラムを立案するために、事業実施以前に十分協議する必要がある。特に住民を巻き込む活動は、参加しやすい日時を設定し、プログラム内容等、十分周知を図る必要がある。
- ② 避難所を学校とする場合は、学校側との事前協議を十分に実施し、役割分担を明確にしておく必要がある。
- ③ 参加者の安全・健康面に留意し、十分な配慮が必要である。また、救護・連絡体制を確立しておくことも必要である。

4. 地域プラットフォームの展望(今後の方向性・取組等)

学校と地域が一体となり活動することで、学校行事への地域住民の積極的な参加や、生徒が地域の行事に日常的に参加することが見込める。これにより、生徒が地域の実情を理解し、住民との絆が深まり、自身が地域構成員の一人であることを自覚し、自助・共助の意識を醸成させるよう取り組んでいく。

5. 団体プロフィール

○熊本県 山鹿市教育委員会 社会教育課

〒861-0592

熊本県山鹿市山鹿987番地3

TEL 0968-43-1651

FAX 0968-43-1218

